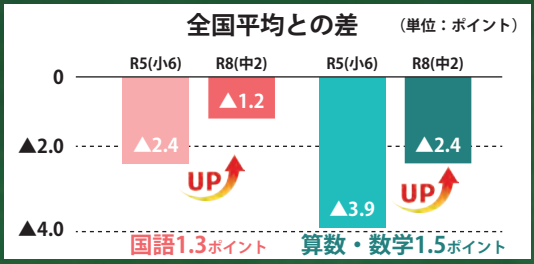
調査結果の分析

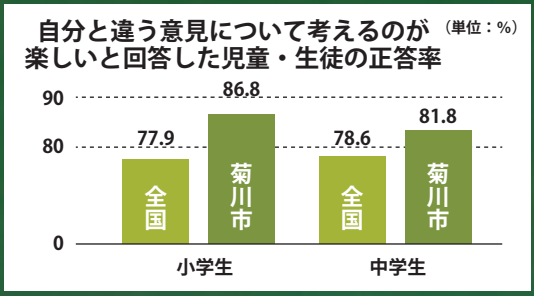
■積み重ねた学びの成果

今回調査を受けた中学３年生について、小学６年生時の令和５年度調査結果と比較すると、全国平均との差は、国語で1.3ポイント、数学で1.5ポイント改善しました。日々の授業の積み重ねにより、育成を目指す資質・能力が着実に身に付いてきていることがうかがえます。

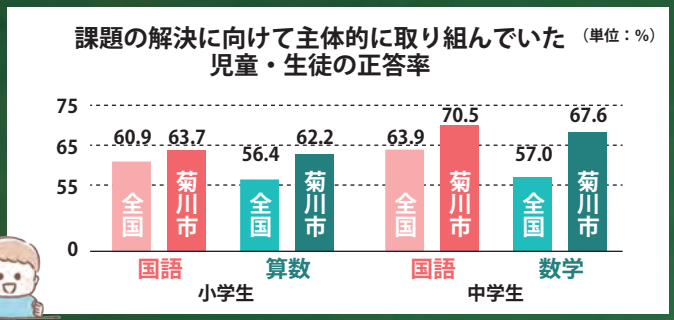


■対話から広がる学び

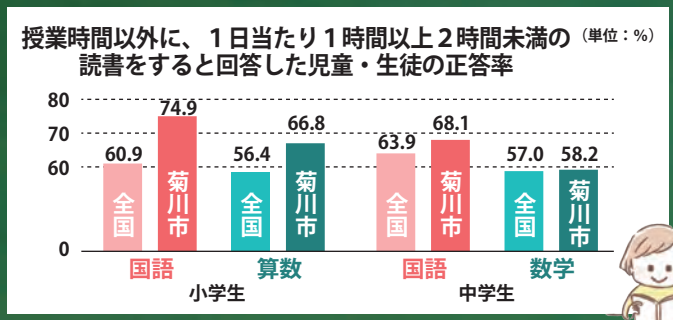
「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問では、肯定的に回答した児童・生徒の割合が全国平均を上回りました。各教科の授業において「主体的・対話的で深い学び」が実践されていることがうかがえます。また、児童・生徒が他者の視点を取り入れることによる学びの広がりや、対話の価値を実感していることが分かります。



■主体的な学びと読書習慣の大切さ

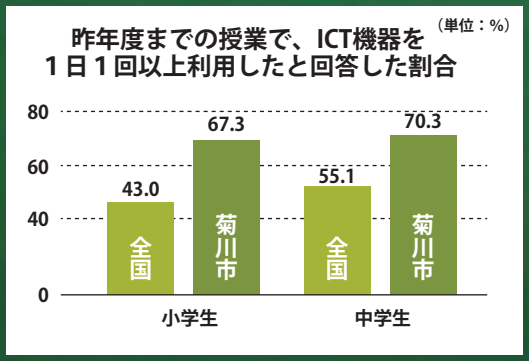


「これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という問いに「当てはまる」と回答した児童・生徒は、全国平均正答率と比べて正答率が高い傾向にありました。授業では課題意識をもって主体的に学ぶことの大切さがうかがえます。



「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という問いに「１時間以上２時間より少ない」と回答した児童・生徒は、全国平均正答率と比べて正答率が高い傾向にありました。家庭で読書に親しみ、活字に触れる機会を増やすことの大切さがうかがえます。

Topics ICT機器の活用

市では、子どもたちの学力向上を図るため、学校訪問などを通して「ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり」を推進しています。今回の調査におけるICT機器の活用状況からも、一人一台端末の１日当たりの使用頻度が全国平均を大幅に上回っていることが分かりました。今後も、市のICT環境を生かしながら、児童・生徒の学力向上につながる授業改善を進めていきます。

また今年度からは、児童・生徒が学習用端末で生成AIを活用できるようになりました。今後も発達段階に応じて、生成AIの適切な活用を含めた情報活用能力の育成に取り組んでいきます。